



有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家。写真は北朝鮮新義州の人々(2012年夏、鴨緑江対岸の中国丹東側から筆者撮影)

◀第4回▶

本多猪四郎と円谷英二

イギリスで最も多くの作品が上映された日本の監督は誰だろうと思いたった。ロンドンの王立映画協会内の図書室で調べてみた。黒澤、成瀬、溝口、小津と名前が浮かぶ。こ



『日本沈没』東京大地震シーンのセット(筆者撮影)

ろが意外というか当然というか、本多猪四郎だった。昭和三、四十年代に子供時代をすごした人なら、東宝の怪獣映画のタイトル

形生まれ。黒澤明と同期で晩年の黒澤作品では『まあだだよ』(一九九三)まで演出を手伝っている。十年早く一九〇一年、福島で円谷英二が誕生した。本多監督が本編部分、円谷特技監督が特撮部分を担当した。

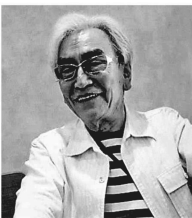
宮崎駿と同じく飛行機好きで、山本嘉次郎の『ハワイ・マレー沖海戦』(一九四三)は代表作の一つである。戦意高揚映画や陸海軍の囑託だったことなどから戦後は公職追放指定を受けていた。大庭秀雄の『君の名は・第一部』(一九五三)の東京大空襲の特撮も円谷英二である。そのまま翌年の『ゴジラ』に使えるような仕上がりがた。



円谷英二(左 1901~1970)と本多猪四郎(1911~1993)

中野昭慶

本編と特撮は合成など別撮り部分をつなぎ合わせるようになる。その調整役として走り回るうちに、円谷監督の指名で助手となったのが中野昭慶である。『妖星ゴラス』(一九六三)から円谷遺作の『日本海大海戦』(一九六九)まで師事する。『日本沈没』から特技監督として活躍した。昨年(二〇二二)の六月に亡



中野昭慶(1935~2022)

森谷司朗『日本沈没』

東宝の特撮技術については、『007』のスタッフも現場を見学している。東宝のミニチュアは板とブリキ製なのを見て、型を造り流し込んで作っていたイギリス側は感心したらしい。ロジャー・ムーア版『007』の宇宙船や潜水艦は、東宝のミニチュアを思わせる。

日本橋方向に拡がる隅田川沿いの大ミニチュアセットの地震シーン撮影に居合わせたことがある。永代橋をピアノ線で支えて、大地震とともに崩落させる。下に古タイヤを敷き詰めた高校の体育館よりも大きなミニチュアセットである。中野監督の「ヨイ、スタート」とともに、それをヴァイブレーターで揺らす。火薬を爆発させ

スモークを焚く。本番一発勝負だ。張りつめた空気の中、複数のカメラがまわる。橋上にはミニチュアの自動車は何台も走っている。それらが次々と落下していく。ところがスモークを焚きすぎて、ステージ内が真っ暗になった。「落ちていて避難してください」の声とともに外に出たスタッフは煤煙で顔が黒くなっていた。中野監督がひと言「失敗した」。完成作品を見るとこの場面は三秒しか使われていなかった。莫大なお金と時間をかけて、何ともゼイタクな話だ。半世紀たっても忘れない大学四年の夏の経験である。

『日本沈没』は大ヒットした。七十年代前半は終末思想がはやり、公害、食糧危機、地震に多くの人がおびえていた。作家では野坂昭如や井上ひさしがその論陣をはっていた。今はさらに問題は深刻化しているが、人々は鈍化してのどかなものだ。

なお、映画で地球物理学者田所博士役の小林桂樹は、翌年の「男はつらいよ 葛飾立志編」でも考古学者田所教授を演じている。

北朝鮮映画『ブルガサリ』

金正恩の父金正日は大の映画ファンであった。『ゴジラ』のような娯楽映画を作りたいたるところから話は動き出す。企画は朝鮮総連を通して、東宝、中野昭慶のもとに届いた。映画は朝鮮民話にある庄

政に苦しみ民衆を救う鉄を食う怪物の物語に煮詰まってくる。大映の『大魔神』(一九六六)に似ている。監督は申相玉。何と女優の崔銀姫と夫婦で拉致された韓国の大監督である。一九八六年、ウイーンで西側に亡命するまで八年間、ビョンヤンで映画製作を命じられた。

映画は北京とビョンヤンで撮影された。日本のスタッフは十五名、ブルガサリの着ぐるみは、『ゴジラ』以来の中島春雄を継いだ薩摩剣八郎である。着ぐるみ、実物の大足、火薬などは例の万景峰号で運ばれた。エキストラに六百人ほしいと言えば千五百人來たり、金正日の指示のもと、何でも通つたらしい。ただし、日本からの



北朝鮮映画の『ブルガサリ』(1985)

十五名の名前はクレジツトされていない。申監督も翌年亡命したため、監督はチョン・ゴンジョと別人になっている。まだ小さいブルガサリを布団で寝かせている可愛らしい場面が印象に残る。崔銀姫、申相玉夫妻の拉致から亡命までの顛末は、二人の手記『闇からの餓(上・下)』(文春文庫一九八八)に詳しい。二人の亡命の記録映画も数年前に見たが、題名は失念した。